

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

<自分大好き 仲間大好き 心かがやく上菅田笹の丘小学校>  
 ○楽しく学び、のびのびと表現しよう。(知)  
 ○みんなも自分も大切にし、社会に貢献しよう。(徳)  
 ○元気な心と健康な体を作ろう。(体)  
 ○学区の特色を知り、地域の方々と共に活動しよう。(公)  
 ○すてきな日本を学び、世界で活躍できる人になろう。(開)

教育課程全体で  
育成を目指す資質・能力

<問題発見・解決能力>  
 <自分づくりに関する力>

具体化した資質・能力

問題を発見する力 解決手段を定める能力  
 他者を理解する態度・自己を理解する姿勢 自己肯定感

中期取組目標

○学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進し、子どもの表現を大切にしながら学力を向上させます。  
 ・1年目は、自分自身で課題を発見し、課題解決に向けて粘り強く取り組み、自分の考えを表現できるようにします。  
 ・2年目は、自分の考えを伝え合う力を育て、自分の課題解決の方法を定めることができるようになります。  
 ・3年目は、伝え合うことで、協働的に解決策を見いだしていくことができるようになります。  
 ○地域での「人とのつながり」意識し、豊かな経験を通して、地域の方々と共に活動する心を育てます。  
 ・3年間を通して、一人ひとりが自己肯定感を高めるとともに、学校や社会に主体的に参画できるようにします。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①日常の中から課題を見つけ、主体的に学習をすすめていけるようにする。 ②友達と考えを伝え合うことで、協働的に解決できるようにする。 ③互いのよさを認め合う場を意図的に設定し、自他のよさを理解し、認め合うことができるようにする。
担当	研究部

学力向上に関わる本校の状況

<令和4年度 横浜市学力調査の結果>  
 ○学習について  
 ・1～5年生では、横浜市の平均よりも「平均正答率」が下回っている。どの学年も、学力層のD層の割合が横浜市の平均よりも多く、A層の割合は少なく、学年が上がるとともにA、B層からC層に下がってくる子の割合が増えている。また、学習意識は学年が上がるとともに低下傾向にあり、学力差も広がっている。  
 ・思考力・判断力・表現力と基礎的な知識・技能ともに横浜市の平均よりも低い。  
 ・「英語で進んで人と話したり話を聞いたりしたいと思う」という項目が横浜市の値よりも高くなっている学年が多かった。英語専科教員をおいていることが影響しており、学習中には自分の考えや気持ちを伝える場面が多かった。その経験を他教科で自分の考えを表現する場面に活用できるようにする。  
 ○生活について  
 ・「将来の夢や目標をもっていますか」、「自分のことが好きですか」という項目において、横浜市の平均の値と同程度か低い結果となった。自分づくり/パスポートや総合の学習を通して、自分づくりに関する力を育てていく必要がある。  
 ・「地域や社会をよりよくするために何をすべきかを考えることがありますか」「地域の行事(お祭り、スポーツ大会、防災訓練、ボランティア活動など)に参加していますか」という項目において、横浜市の値よりも全体的に低い結果となった。本校が目指す資質・能力である、地域での「人とのつながり」を意識し、総合等でのゆたかな経験を通して、地域の方々とともに活動できる心を育てることを指導・支援していく必要がある。

今年度の目標

①子どもたちがめあてを明確にもち、主体的に学習を進めることができる授業づくりをする。  
 ②子どもたちが考えを伝え合う場を大切に、安心して表現できる雰囲気づくりを行う。  
 ③子どもたちが自分のがんばりやよさを実感できるように、振り返りの場を設定し、価値づける。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
○問題解決力を育てる学習 ・導入の際、日常の中から課題を見つけることで、意図的に問題解決に取り組めるようにする。 ・多くの子どもが実感をともなった理解ができるように、体験的な活動を取り入れる。 ・板書や掲示物、写真や動画など、視覚的な支援を行う。 ○基礎的な学力の定着 ・高学年での学力差や、C、D層の子どもを少なくするために、中学年から少人数学習や、習熟度別学習を取り入れた指導を行う。 ・基礎的な知識・技能の習得のために、大学生や地域のボランティアを活用して、低学年から細やかな支援を行う。 ○家庭との連携 ・家庭学習の習慣を定着するために、懇談会や学校便り等で保護者に家庭学習について情報発信を行う。 ○読書タイムの活用 ・読書の習慣を定着させるために、朝の読書タイムを活用する。	○重点研究(算数科)を中心とした学習の進め方 ・子どもたち一人ひとりが達成感をもつことができるような学習を展開する。また、学習系統を大いにするために、教職員が独学・他学年の学習を見合う事を意識し、意見交換をしながら学習を進めることができるようにする。 ○自分の思いや考えを友達と伝え合い、協働的に解決していく学習 ・友達と伝え合うためにも、自分の考えとの共通点や差異点を見付けながら話を聞くとともに、自分の思いや考えをわかりやすい言葉で伝える場を意図的に設定する。小グループでの活動を積み重ね、協働的に問題を解決するプロセスが理解できるようにする。また、協働的に解決するよさや楽しさが実感できるように、互いのよさを認め合う場を設定する。 ○学びをまとめ、次の学びにつなげる学習 ・学習したことをもとに自分たちで次の課題を見い出し、学びをつなげていけるように、教科等のつながりを意識した学習を展開する。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権教育	①本年度重点研究「算数科」において、児童が自分の考えを言語化し、伝え合う活動を通して、多様な考えを尊重する姿勢を育むようにする。②自己肯定感を高めることで、自分も他者も大切にできる子を育む。③教師や子どもの人権感覚を高め、地域・保護者と連携し、いじめの未然防止、早期発見・早期対応に努める。
担当	指導部・道徳部

豊かな心に関わる本校の状況

○本校は統合4年目となり、旧上菅田小学校、旧笹山小学校で過ごした時間より、本校で過ごした時間の方が長くなった。学校生活を通して、互いを認め合いながら、楽しい学校生活を送れるようになってきている。  
 ○友達と一緒に過ごし、協力して活動することを通して、関係を深めてきている。  
 ○友達との活動では、自分の思いを伝える姿も見られるようになってきた。  
 ●個としては、心の弱さが見られ、相手の言動により気持ちが沈む子どもが多い。  
 ●全国学力・学習状況調査の結果から、「いじめを許容しない」の数値が低く、いじめに対する認識が甘い様子が見られる。  
 ●道徳的価値は知っているが、実践できない面も見られる。  
 ●自己の思いを表現することに苦手意識があり、コミュニケーション能力を育成する必要がある。

↓  
 表現の仕方が適切でなかったり、語彙が不足していたりすることがある。思いをうまく伝えることができなことから、相手を傷つけてしまったり、トラブルに陥ったりしてしまつてしまう実態が見られる。

今年度の目標

自分の考えを伝え合う活動や様々な人との関わりを通して、  
 ①自己を大切にすることを育み、自己肯定感を高める  
 ②多様な考えを尊重する姿勢を育み、他者を理解しようとする態度につなげる

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
・いじめを許容しない学校を目指し、人権教育全体計画をもとに子どもの社会的スキル横浜プログラムを位置づけ、効果的に活用する。 ・自己肯定感を高めていくために、意図的に他学年との交流を増やす。特にペア学年交流を活用し、高学年が低学年をサポートする経験を多く積める場を設定する。 ・自分のよさに気づき、自分を大切にすることを育てながら、他者(友達)のよさも認め、他者(友達)を大切にしていける循環につなげていく。 ・地域の一員としての自覚と地域に奉仕する心を育み、積極的に地域行事への参加と活動を促していく。今年度は、校舎の移転も控えているため、より地域との連携が計れる活動を計画・実施していく。 ・いじめの早期発見・早期対応のために、学校生活アンケートを実施する。 ・情報モラル教室等を通して、人権に配慮する気持ちとスキルを高める。	・いじめを許容しない学校を目指し、人権教育全体計画をもとに子どもの社会的スキル横浜プログラムを位置づけ、効果的に活用する。 ・自己肯定感を高めていくために、意図的に他学年との交流を増やす。特にペア学年交流を活用し、高学年が低学年をサポートする経験を多く積める場を設定する。 ・自分のよさに気づき、自分を大切にすることを育てながら、他者(友達)のよさも認め、他者(友達)を大切にしていける循環につなげていく。 ・地域の一員としての自覚と地域に奉仕する心を育み、積極的に地域行事への参加と活動を促していく。今年度は、校舎の移転も控えているため、より地域との連携が計れる活動を計画・実施していく。 ・いじめの早期発見・早期対応のために、学校生活アンケートを実施する。 ・人権週間を通して、特別支援学校や障害者の方との交流を通じて、その状況や思いへの理解を図り、人権に対しての理解を高める。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育 食育	①各家庭と協力して基本的な生活習慣の定着「早寝早起朝ごはん」をめざす。 ②子どもたち協力を大切にし、楽しく運動に取り組み、年間を通して、体力の向上に励む。 ③栄養教諭と連携しながら、食育に力を入れ、自らの生活の課題を考えられるような食育に関する授業を行う。
担当	体育部・食育部

健やかな体に関わる本校の状況

・令和4年度の朝食の摂取状況は、全学年で85%以上という結果になり、どの学年も市の平均を上回っていた。毎月1回行っているバランスイーナカードや食育推進の成果が表れていると思われる。一方で、学年があがるにつれ、基本的な生活習慣が乱れ、朝食を食べないで遅れて登校する児童がいたのも現状である。  
 ・令和4年度の1日の睡眠時間の結果は、2年生と3年生は8時間睡眠をとれている割合が市の平均よりも上回っていた。一方で、1年生を含む4年生は市の平均よりも下回っているため、引き続き今後より家庭との協力を密にし、「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを実践していくことが必要であると思われる。  
 ・設問「運動・スポーツをどのくらいするか(体育の時間は数えない)への回答は、「ほとんど毎日する」がほとんどの学年が40%以下という結果になった。1年生は、一番低く18%という結果になり、学校全体としても運動する児童が少ないということが課題であると分かった。休み時間の体力アップ活動等、放課後や休日に運動の親しむ時間の確保が今年度も課題となる。  
 ・令和4年度の体力テストの結果を見ると、運動する場所がとれないなかでも、基本的にはどの学年も体力テストの結果が市平均と同程度、あるいはそれ以上の値を示した。場の工夫をして、テラスで50m走を行った成果だと考える。しかし、3年生の50mの記録が昨年よりも落ちているため、来年もテラスを活用した体力向上の取り組みもしていくことがよいと考える。また、今後も学校では、場所の工夫をして運動時間の確保に努めていくことが必須である。

今年度の目標

・「早寝・早起き・朝ごはん」を意識し、自分で意識しながら基本的な生活習慣を送れるようにする。楽しく運動を行い、体力を向上させる。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
○体育読本、体育科指導の解説等を活用して、子どもたちが「わかる」「楽しい」授業を実現していくことで、運動の楽しさや喜びにふれ、課題を解決する力を高めていく。また全校で同じ学習カードを使うことで、安心して学習に取り組めるようにする。 ○年度ごとにカリキュラムや特別教室割当を改善し、運動場・テラスなどの場の使い方を工夫し、運動量・学習量を十分に確保し、授業を展開できるようにする。 ○体育委員会と連携をして、体力目標を立てて、クラスや学年で実践する。 5月:校庭 短縄チャレンジ ○特別活動(2)において健康についての課題を取り上げ、自分なりの目標を決め、それに対しての具体的な取組を行っていく。 ○毎月の食育の日で、バランスイーナカードを活用し、食育について学ぶ。	○校内ネットワークを利用した学習資料の共有化や、必要に応じた研修の実施を通して、指導力を高める。 ○体育委員会と連携をして、体力目標を立てて、クラスや学年で実践する。 11月:校庭 長縄 各学年:テラス 7秒間 ○総合的な学習の時間等で、地域での「人とのつながり」意識し、豊かな経験を通して、地域の方々と共に活動する心を育てる。また、校内環境を活用したり、地域の農家の方との連携を図ったりして、食物を育て、食べることを通して自他の生命と向き合えるようにしていく。 ○毎月の食育の日で、バランスイーナカードを活用し、食育について学ぶ。